

会 議 録

会議の名称	第 3 9 回和泉市史編さん委員会
開催日時	令和 7 年 7 月 2 8 日（月） 1 0 時 3 0 分 から 正午 まで
開催場所	和泉市役所本館 3 階 3 A 会議室
出席者	〔構成員〕 栄原永遠男委員、塚田孝委員、仁木宏委員、並木敏昭副市長、大槻亮志教育長 〔事務局〕 辻教育次長兼生涯学習部長、森下文化遺産活用課担当次長兼課長、山千代文化遺産活用課長補佐兼係長、村上文化遺産活用課主事、山下文化遺産活用課市史編さん室職員、永堅文化遺産活用課市史編さん室職員
会議の議題	検討事項 1 令和 6（2 0 2 4）年度の事業報告 検討事項 2 令和 7（2 0 2 5）年度の事業計画
会議の要旨	令和 6（2 0 2 4）年度の事業報告及び令和 7（2 0 2 5）年度の事業計画について意見交換を行った
会議録の作成方法	☐ 全文記録 ☒ 要点記録
記録内容の確認方法	☐ 会議の議長の確認を得ている ☒ 出席した委員全員の確認を得ている ☐ その他（ ）
その他の必要事項	広川委員長は都合により欠席。

審議内容（発言者、発言内容、審議経過、結論等）

1. 令和6（2024）年度の事業報告について意見交換

【栄原委員】

- 広川委員長の欠席により、司会を代行する。
- 『和泉市の歴史』最終巻の進捗について、委員の意見をうかがいたい。

【塚田委員】

- 『和泉市の歴史』最終巻の第一部「総合叙述」の執筆を進めている。
- 市域の「T家文書」には1万点に及ぶ近世の古文書がある。いまはどのような状態であるのか。
- かつて調査した資料群についても、もう一度確認し、その成果を市民に還元するべきであろう。

【事務局】

- 当該の資料群は、近世には関宿藩の領知において大庄屋をつとめた家である。近代には酒造業や銀行業にも進出しており、近代以降の資料については調査済みである。
- 酒蔵等はかつて建築史の専門家に調査していただいた。今後も調査を試みたい。

【栄原委員】

- 過去に調査した資料群の再調査、追加調査等については、綿密な計画を立てて実施して欲しい。
- 市域には未調査の資料群も残されていると推測する。今後とも継続的な調査が必要である。

【仁木委員】

- 紀要32集『中世「黒鳥村文書」「泉井上神社文書」の研究』（2023年）を増刷したとのことだが、どのような方が購入しているのか。

【事務局】

- 中世史に関心を持つ全国の大学院生や研究者から購入希望を承っている。令和5年度には和泉市いずみの国歴史館で「黒鳥村文書」の展示を行ったので、地域への宣伝効果もあったと思われる。

【栄原委員】

- 公文書に関する事業の比率が高くなっているように見受けられる。どのような状況か。

【事務局】

- 令和6年度は評価選別の初年度でもあり、試行錯誤が続いている。
- デジタルアーカイブの構築については、市史編さん事業の蓄積がある本市ならではのものを作りたい。

【栄原委員】

○評価選別はどのような仕組みで行っているのか。

【事務局】

○原課での一次選別、文化遺産活用課での二次選別を「和泉市歴史公文書の決定に係る基準に関する要綱」に則して行っている。

【塚田委員】

○公文書管理に関する業務については、人的な体制が弱いと感じる。

○特定歴史公文書の管理は、市の成り立ちを示すうえで、極めて重要であろう。

2. 令和7（2025）年度の事業計画について意見交換

【栄原委員】

○『和泉市の歴史』最終巻について、委員の意見をうかがいたい。

【塚田委員】

○最終巻の第一部「総合叙述」は、地域の形成を総合的に捉え、地域の個性をくっきりと示すことを目標とする。

○『和泉市の歴史』第一巻の「横山編」を執筆した時には、まだ市域の全体像が見えていなかったが、改めて読み直すと、さまざまなことが研究課題として残されていることに気づかされた。

○たとえば阪本新田の歴史は、なぜ「池田編」に収録したのかは、編集当時は明確に考えていなかった。今では古代から現代までを通観して、地域編成の展開を捉える必要を感じる。

○「総合叙述」は第二部「市域の通史」で論じられる各時代の内容と対照させながら、章立てや内容を見直していきたい。

【栄原委員】

○最終巻「総合叙述」は地域に即した内容となり、「市域の通史」がこれを横断するものと理解する。

○次に市史編さん事業の今後について、委員の意見をうかがいたい。

【仁木委員】

○大阪公立大学と和泉市教育委員会との合同による地域調査（合同調査）は、大学の教育・研究活動として大きな比重を占めており、文化財専門職を志す学生にとっても大きな魅力となっている。今後とも何らかの形で継続することを期待する。

○他方で杉本キャンパスから森之宮キャンパスへの移転にともない、大学としては大阪東部地域への社会貢献も重視されることになろう。

【栄原委員】

○大阪公立大学にとっての合同調査の意義が問われる一方で、和泉市にとっての意義も問われるべきであらう。

○市には市史編さん事業終了後の大きな事業構想とともに、合同調査の位置づけも示して欲しい。

【事務局】

○市史編さん事業においては、書籍の刊行と資料の調査・保全とを「車の両輪」として継続してきた。これを踏まえて、検討を続けていきたい。

【塚田委員】

○合同調査は町会、座、水利組合といった組織単位に注目して継続してきた。横山・松尾・池田・信太・府中という五つの地域区分より、さらに基礎的な部分に注目した取組みと言えよう。このような、ひとつの地域を網羅的に捉えようとする取組みは、他の自治体史編纂事業には見られない特徴である。

○調査・研究の成果を発表してきた『市史紀要』についても、工夫を重ねながら継続・発展し、また名称も残していくことが望ましいのではないか。

【並木副市長】

○市史編さん事業の発足した平成8年は、和泉中央駅周辺が開発された時期であり、本市にとっても大きな転換期にあったと思う。そのような時期に開始された事業が節目を迎えることは非常に意義深い。

○事業の総括を行い、今後を展望したい。

【大槻教育長】

○『和泉市の歴史』最終巻の編集・刊行は、これまでの蓄積を見直し、新しい事業の端緒になるものではないか。

○地域や生活に関する歴史は、こどもたちが生きていく上で貴重な糧となることを十分に認識し、市史編さん事業の成果を本市の教育行政に活かしていきたい。

3. 閉会

【栄原委員】

○以上をもって、第39回市史編さん委員会を終了する。

〈終了〉